令和７年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 東岩槻 小学校 ）　　学校番号　０９５

【様式】

学校教育目標	「ともに伸びる子」かしこく・ゆたかに・たくましく
目指す学校像	安全・安心で潤いのある学校　生き生きと学ぶ活力のある学校　豊かな心と身体を育てる人間関係さわやかな学校 家庭・地域とともにある信頼される学校

重点目標	１　「自律して学ぶ力」を育む学習指導の充実 ２　「自立してたくましく生きるための心と身体」の育成を図る教育の推進 ３　子どもの未来・地域の未来をつくるコミュニティスクールの推進 ４　安全・安心で豊かな学びを保障する教育環境の整備・充実 ５　生き生きと学ぶ活力のある持続可能な教職員組織の構築

※重点目標は５つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
達成度	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価

番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会による評価 実施日令和８年２月４日 学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	（現状） ・授業中学習に関心をもって前向きに取り組む児童が多い。また、タブレットの活用に対する関心は高く、進んで取り組むことができる。 ・学習指導におけるＩＣＴの活用については、教職員研修等を行うことを通して取組を進めている。 （課題） ・基本的生活習慣・学習習慣の定着に向けて、取組を進める必要がある。 ・指導の個別化、ＩＣＴの効果的な活用を含めた授業等学習指導の改善について、研究を進める必要がある。	「自律して学ぶ力」を育む学習指導の充実	・授業において、自分で考える時間、友達の意見を聞く時間、自分たちで考えをまとめる時間を確保し、児童が学習のつながりに気づき、意識できる授業展開、掲示の工夫に取り組む。	・学校評価（児童）「自分で考えて、進んで勉強している」「授業の課題や主題に最後まで取り組んでいる」について肯定的な回答の割合が昨年度以上（８８％・８７％）となったか。	自分で考えて：８８％　授業の課題や：９１％ ともに目標値以上の結果であった。 授業で主体的・対話的に活動できる話し合いの場を充分に取る指導上の工夫を行っていることで、より自律して学ぶ力が向上している。	A	アクティブ・ラーニングの推進のために、基盤となる ICT 環境の充実、協働学習用ソフトの活用能力の向上や現在の取組みを「メタ認知」に向けた「つかむ」「見通す」「自力解決」「協働解決」「練り上げ」の主体的な学びを通した「よい授業」として進化させることで実現を図る。	タブレットを活用した授業が見られ、以前と比べて学習の形態が随分変わったと感じる。授業の構成の中で、タブレットを活用する時間や方法を考えてさらに効果的な学習ができるようになればと思う。 「教える」から「学ぶ」学習へと変わっていく中で、児童生徒は受け身ではなく主体性を伸ばしていくことが分かった。
		基礎学力向上を目指した学習指導の充実	・ドリルパーク等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟及び各単元で練習問題に取り組む時間を確保するための授業展開の工夫に取り組む。 ・家庭、地域と連携した基本的生活習慣、学習習慣の定着に向けた取組を実施する。	・市学習状況調査（国語・算数）の正答率数値（「知識・理解」「思考力・判断力・表現力」）を前年度より向上（67.3　54.3　59.0　56.0）させる。 ・学期単元まとめテスト（国語・算数）の正答率数値（「知識・理解」「思考力・判断力・表現力」）を１学期より向上させる。	①国語「知識・理解」－1.3P 「思考力・判断力・表現力」－1.6P 算数「知識・理解」－3.3P 「思考力・判断力・表現力」－1.0P ②国語「知識・理解」＋4.8P 「思考力・判断力・表現力」＋3.2P 算数「知識・理解」－1.9P 「思考力・判断力・表現力」＋2.2P	B	ワークシートやドリル学習など繰り返し行う学習やそのつど結果がでたり、振り返りができたりすることを積み重ねることで、児童の学習に対する楽しさや意欲の向上を図りたい。	
2	（現状） ・素直で優しい児童が多い。人への関心が高く、他者を受け入れる姿勢がある。 ・係や委員会活動、学校行事などに意欲的に取り組んでいる児童が多い。 （課題） ・学校評価（児童）「友達や先生と一緒に勉強をしたり活動したりすることは楽しい。」と回答した児童の割合が８８％である。 ・全学年単学級のため他者との関りが固定化している。 ・学校評価（保護者）「教職員は子どもの悩みやトラブルなどについて迅速かつ丁寧で親切に対応している」について肯定的な回答の割合が８１％である。 ・児童一人ひとりに応じた指導や支援について、全教職員で組織的な対応が求められている。	児童の自己肯定感・自己有用感を高める教育活動の実施	・授業等における異学年による学び合いの機会を設ける。 ・他者（児童同士、他校の児童生徒、教職員、保護者・地域の方々）との交流の場・機会を設ける。 ・学級活動、児童会活動、学校行事等において、児童が主体となって活動する機会を設ける。	・学校評価（児童）「友達や先生と一緒に勉強をしたり活動したりすることは楽しい。」について肯定的な回答の割合が前年度以上（８７％）となったか。 ・学校評価（児童）「先生は、がんばったことをほめてくれる」について肯定的な回答の割合が前年度以上（８７％）となったか。	友達や先生と一緒に：８７％ 児童会の活動や行事、学級活動において、児童主体の活動やキャンペーンが定着してきていることで、児童は集団活動における自己肯定感・有用感が高まり、自律心が伸びてきていると考える。 先生は、がんばったことを：９１％ 「観察」や「声かけ」を丁寧に行っていることで、児童が教職員を慕っている様子が伺える。	B	指導や支援を充実させるための基盤となる「観察」「点検」「環境整備」「見届け」を丁寧に行う。 教育委員会、関係機関、関係業者等の専門職員や専門職との連携を丁寧に行い、安全教育と安全管理を相互に関連付けて、自助・共助が主体的にできる児童を育てる。	教職員が観察し、気付きからの指導・支援を行う過程で、児童・生徒からの発信力を高めていくことが大切ではないか。児童・生徒が思ったり考えたりしていることをどのように話したり伝えたりするといいかという言語化の力の向上も必要だと考える。
		校内教育相談、支援体制の構築	・職員集会や生徒指導・教育相談委員会で必要な児童の状況や情報を丁寧に交換し合い、アプローチの共通理解を行う。また SC・SSW・関係機関のアセスメントを参考にした丁寧な教育相談を実施する。	・学校評価（保護者）「教職員は子どもの悩みやトラブルなどについて迅速かつ丁寧で親切に対応している」について肯定的な回答の割合が昨年度以上（８１％）となったか。	教職員は子どもの悩みや：８８％ 児童や保護者からの悩みや相談にはその日のうちに対応を始めるために、管理職への報告・連絡・相談、延いては関係職員での協議・対応確認をしやすいような環境作り（教室訪問・管理職から教職員への声かけ・関係作りを大切にした。	A	学校全体の組織で取り組めるように、養護教諭、本部職員、SA、SC,SSW 等の児童への観察や関わりをもとにした気付きを担任や管理職と共有し児童へのアプローチへとつなげていきたい。	
3	（現状） ・保護者ボランティアを募集するシステムが整い、活動が進められている。 ・学校運営協議会（小中合同あいさつ運動等）、SSN（１年生下校時見守り活動等）、社会福祉協議会長期休業中の宿題教室等）、青少年育成会（地域パトロール等）、を実施することができている。 （課題） ・音楽・図工・家庭科・体育等、専門家から学ぶ機会や地域の人などが、授業に協力できるとよい。 ・コミュニティスクールとしての取組について、さらなる周知ができるとよい。	保護者・地域ボランティアとの連携・協働	・保護者・地域ボランティアの活動について効果を上げる方法や内容を工夫する。	・ボランティア活動の機会や参加人数が昨年度と同等以上となったか。	学習指導のお手伝い・掲示物の作成・クラブ活動のお手伝い・除草作業等、例年同様、５０～６０人の保護者の方のボランティアがあった。また、桜山中学校・開智中高等学校・岩槻高校との交流により、授業支援や環境整備の支援活動を実施していただいた。	A	PTA という組織がなく、サポート隊としての活動支援を行っていただいている体制は今後も継続して、スクールコミュニティとしてのさらなる連携を築いていけるとよい。	児童生徒数が少ないことで相対的に多様な関わり合いの充実を期待する。 学校から保護者・地域への情報発信をさらに工夫し発展させられると保護者や地域の方の学校教育への理解と協働が伸びていくのではないかと思う。 自治会で協力できることは進んで行っていきたい。
		地域・関係機関との連携・協働	・地域人材の整備や見直し、新たな確保等を進める。 ・桜山中学校や近隣の教育機関との連携を図るため、年間を通した取組を計画的に実施する。	・地域の人材確保を進めることができたか。 ・学校評価（教職員）「学校間の接続に関する工夫がなされているか」について肯定的な回答の割合が前年度以上（９３％）となったか。	地域の方にお願いしていた書き初めの講師昨年度までで退かれ、今年度は教職員で指導支援を行うこととなった。 ８６％－７　桜山中学校とは合同の学校運営協議会や教員研修で相互に運営状況や児童生徒の指導状況を理解し合うことができた。	B	書き初めや和楽器など地域の文化的技能を持たれている方の教育活動における支援を何らかの形で得られるようにしていけるとよい。	
4	（現状） ・個別最適な学習の充実へ向けて、SA や AT 等の人的学習支援や ICT の活用工夫等の環境作りを進めている。 ・学校評価（保護者）「学校は事故防止への配慮をしている」について肯定的な回答の割合が９１％である。 （課題） ・更なる学びの多様化を実現するための教職員の ICT 活用能力や指導支援力の向上 ・校内の安全や事故防止について、設備や体制を見直し、再構築する必要がある。	個別最適な学習と学習環境作りの整備	・教育心理・教育相談や特別支援教育の考え方や手法を取り入れた指導支援のアプローチを行う。 ・ICT 活用に係るスキルアップの研修を学校課題研修で定期的に行う。	・学校評価（児童）「先生は勉強がしやすいように授業や宿題を工夫している」について肯定的な回答の割合が昨年度以上（９１％）となったか。	９１％　教職員は児童が登校している間、児童と向き合う機会を確保し、児童一人ひとりに応じた指導支援が充実するように努めている。管理職も授業中はもとより給食指導や休み時間も教室や校庭で観察や指導を日常的に行い、担任等への指導の助言につなげている。	A	主任や専門職のスキルに支えてもらいながら教育相談や特別支援教育的視点で一人ひとりの支援を行っているが、今後はそのスキルを全教職員が徐々に身に付けられるようにしていくことができるとよい。	配当される予算は限りがあると思うが、引き続き「豊かなかかわりあいの充実」や「安全・安心な環境」を整えていってほしい。
		児童の安全・安心で豊かな学びを保障する教育環境の整備	・校内設備や体制を見直し、再構築するとともに適切に実施する。	・学校評価（保護者）「学校は事故防止への配慮をしている」について肯定的な回答の割合が昨年度以上（９１％）となったか。	９０％　校庭・中庭の整備に力を入れた。特に中庭は業者により草木の手入れを行い見違えるほどきれいになった。食物アレルギーに係る迅速・丁寧な対応を行った。	A	児童の安全面での事故０を目標として、継続して対策を続けていきたい。	
5	（現状） ・学校全体での迅速（初動）誠実（寄り添い）アフターケア（支援）の協力体制としている。 ・「授業づくりチェックシート」を活用した教職員同士の相互参観での授業改善を行っている。 （課題） ・教職員数が少なく、一人ひとりの教職員が担う業務量が多い。業務改善を継続していく必要がある。 ・新たな教育課題への対応については、継続して研修を実施していくことが必要である。	生き生きと学ぶ活力のある教職員集団の育成	・学年ブロックや校務分掌のバディ体制をもとにして、一人で抱え込まない環境作りを行う。 ・教職員一人ひとりのキャリア段階や役割（担当分掌）に応じた研修を計画的に実施する。	・学校評価（教職員）「明確な運営・責任体制が整備されているか」について A 評価の割合が昨年同等以上(93%)となったか。 ・教職員の人事評価シート「研修」への取組について、全教職員が８割以上の達成状況となったか。	８６％ 年間の研修計画に沿って学習用ソフトの活用、校務用 PC の活用等指導法の工夫紹介研修、管理職・教員相互の授業参観、全国学調等学力や学習指導の分析等、全教員で計画的な研修を行った。 ８割以上の達成状況であった。	A	教職員の専門性を高め、強い組織を構築するために、自己分析と管理職の面談等を通した助言の更なる向上を行っていく。	少ない教員の数でよく児童への指導を行ってくれていると思う。 東岩槻小と桜山中との合同の取組や協力体制は継続していけるとよい。
		心身ともに元気で、持続可能な教職員組織を構築する業務改善の実施	・働きやすい職場環境を構築するため、業務改善委員会を中心に、業務改善の提案、実施を行う。	・学校評価（教職員）「積極的な業務改善や時間をかけずに分かりやすい授業等の実施に努めているか」について肯定的な回答の割合が昨年度以上（９３％）となったか。	９３％ 職員会議等の資料、教育計画・教材研究に伴う資料等校務用 PC で活用できるよう教職員同士協力してスキルの習得を進めている。	A	教職員間で職務を支え合う関係作りに継続して取り組む。 時間外在校時間の更なる縮減に努める。	